

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【公表番号】特表2002-538437(P2002-538437A)

【公表日】平成14年11月12日(2002.11.12)

【出願番号】特願2000-601462(P2000-601462)

【国際特許分類】

G 0 1 S	13/93	(2006.01)
B 6 3 B	49/00	(2006.01)
B 6 4 D	45/00	(2006.01)
G 0 8 G	3/02	(2006.01)
G 0 8 G	5/04	(2006.01)
H 0 1 Q	1/02	(2006.01)
H 0 1 Q	1/12	(2006.01)
H 0 1 Q	1/22	(2006.01)
H 0 1 Q	1/28	(2006.01)
H 0 1 Q	1/42	(2006.01)
H 0 1 Q	13/24	(2006.01)
H 0 1 Q	21/20	(2006.01)
H 0 1 Q	21/24	(2006.01)
H 0 1 Q	21/29	(2006.01)

【F I】

G 0 1 S	13/93	P
G 0 1 S	13/93	S
B 6 3 B	49/00	Z
B 6 4 D	45/00	
G 0 8 G	3/02	A
G 0 8 G	5/04	A
H 0 1 Q	1/02	
H 0 1 Q	1/12	B
H 0 1 Q	1/22	A
H 0 1 Q	1/28	
H 0 1 Q	1/42	
H 0 1 Q	13/24	
H 0 1 Q	21/20	
H 0 1 Q	21/24	
H 0 1 Q	21/29	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年3月12日(2008.3.12)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 7】

本発明の更に別の目的は、複数のオレンジウェッジセクター、例えば、8つの異なる送信機／受信機の方向パターン（上／下、左舷／右舷、前方／後方）を覆う8つのセクターに切り出された誘電球体により形成される全方位のL-バンドのマイクロ波アンテナを備

える、上述した検出システムを提供することにある。L - バンドのマイクロ波信号は、航空機の回りの検出球をカバーする全方位送信を提供するため8つの誘電区分全てから同時に送信される。更に加えて、同じ8つの誘電セクターは、近傍にある他の航空機から後方反射されたマイクロ波信号を受信するための適切な受信機回路と共に用いられる。これらのセクターは、8つのビデオチャンネルを提供し、これによって、航空機のパイロットは、大惨事を回避するため適切な回避操作を実行することができるよう、近傍の航空機の方向、近接さ及び接近率(rate of closure)に関する情報を受信する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0024

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

チャンネルインジケータゲート60は、信号70を、可聴警報及びライトフリッカー／ライト生成器72に通過させる。可聴警報及びライトフリッcker／ライト生成器72は、可聴警報信号74を拡声器ホーン76に、及び、ライト生成信号78を透明ディスプレイ球42に送る。拡声器ホーン及び透明ディスプレイ球は、両方ともコックピット内に取り付けられている。信号78は、脅威となっている航空機TAの位置即ち方向、脅威の航空機の範囲及び航空機の接近率に関する情報を持っている。その結果、ライト44a～44hの一つ及びそれと連係する透明セクター42a～44hの一つは、一つの受信機区分14a～14h及びそのピーク戻り信号を検出したその検出器26に対応し、ライトアップ、明滅して、パイロットに当該情報を提供する。同様に、エイシングアラウンド(Asing-around)作用の故に、発信音及びホーン76の発信率は、脅威となる航空機TAの距離又は範囲並びに接近率に関する情報を提供する。十分に早い警報時間提供するこの情報を用いた場合、航空機12のパイロットは、彼の飛行機を巧みに操作して航空機TAとの衝突を回避することができる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0032

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0032】

シングアラウンド率の制御／スレッショールド108は、既に説明された。放射範囲の情報がシングアラウンドフィードバックループサイクルの間の時間内に内在されるのとは別に、これらのサイクルのPRFの変化は、相対的な放射範囲の接近率上に情報を乗せることに着目されたい。この後者の量は、衝突の切迫を評価する際の重要な測度である。しかし、幾つかの低い接近率状況の下では（例えば、通常の滑空スロープ着陸の間の地面に接近するときの下降率）、可聴警報又は視角警告表示は、逸らされ得る。勿論、手動のオーバーライドを適用することができるが、パイロットに部分的な予測を必要とする。カウンター108の目的は、シングアラウンドフィードバックループ52を、好都合な情況の間に時期尚早にトリガーされることから下検分するため、半径範囲の接近率情報へのスレッショールド機能を適用することである。次に、トリガー機能は、ロジック86が脅威となる可能性のある事象とみなすことが合理的であると指令したときのみ有効とされる。そうでなければ、コントローラは、シングアラウンドフィードバックループを、その静止状態に戻す。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

チャンネルインジケータゲート58は、既に説明された。モジュール90及び92無しの基本となるUNICORN™システムの場合には、その唯一の機能は、回路82及び84を通して有効とされるように、信号80のチャンネル表示を取ることである。このとき、半径範囲、半径範囲の接近率及びオクタントセクター接觸情報を迅速であるがパイロットに識別可能且つ一義的に伝達することを如何に実行すべきかを可聴警報及びライト明滅色ライトで指令するための手段としてロジック86により第1の接觸選択(contact selection)が実行される。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

拡声器76は、様々な可聴警報トーンのシーケンスを再生成するため使用される。その音の内容は、即ち、急速に反応する必要に関して緊急の意味合いを伝達する、ビー
ビー　　ビー　　ビー - ビー - ビーという、これら発信音シーケンスのPRFを変化させることにより、半径範囲及び半径範囲接近率を伝達する一方で衝突又はニアミスが差し迫ってくるタイプを同定する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

UNICORN™システムがTCASにより取り組まれた問題に直面しないことに言及することは価値がある。TCASの設計では、大きい民間のエアーライナーがより小さい航空機と衝突し即ちその上に下降するという設計上の問題を持っている。これらのより小さい航空機は、遙かに小さいRCSを持ち、概して、エアーライナーの大気中速度の性能を持っていないが、それにも拘わらず、極度の回避処理をより良く取ることができる。より小さいRCSは、パルス応答機により提供されるようなレーダーエコー戻り強化機能を必要とする。これは、勿論、例えばGPS受信機などの他の有用な情報及び他のデータを、より小さい航空機による符号化応答機の戻り信号に追加することを可能にする。これとは反対に、UNICORN™システムは、より小さい航空機への応用を描いており、脅威となる可能性のある航空機の一つとしてより大きいRCSを持つエアーライナーを、想定している。他のより低いRCSの小さい航空機（それらの低い大気中速度のため）は、急速には接近せず、これによって、減少された早期警報時間と比較して、対応する迅速さの減少した接近に起因して、より小さいRCSと連係されるより短いレンジをより許容可能にする。